



★☆☆  
5回目のシリア難民の人々にとって、最も厳しく過酷な季節がやってきました。12月15日には、シリア国内最大の拠点といわれたアレッポ北部にて、シリア政府軍による制圧が決定的になり、シリア紛争は重要な局面を迎えてきています。また、隣国イラクでのモスル陥落により、これまでイラクに逃げていたシリア難民やイラク国内避難民がシリア国内に入ってきており、シリアをはじめとする中東情勢はますます混とんとして来ています。2017年最初のメルマガも盛りだくさんの内容となっています。シリアのこと、そしてシリア難民のことに思いをほせていただければと思います！

+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*

## ■目次

### 1. アハバールフロムヨルダン ≪ヨルダンからの報告≫

- (1) 代表からの挨拶  
(報告：サダーカ代表 田村 雅文)
- (2) ヨルダン訪問記  
(報告：サダーカ訪問者 和泉保廣さん)
- (3) 水と電気と厳しい冬  
(報告：サダーカ・インターン 大竹菜緒)
- (4) 「ヨルダンへの渡航を終えて」  
(報告：慶應義塾大学2年 学生団体 S.A.L. 広田潤平)

### 2. アハバールフロムニッポン ≪日本での活動の報告≫

- (1) 「目を閉じれば、いつもそこに～故郷(ふるさと)・私が愛したシリア」上映会の記録  
(報告：サダーカ イベント担当 斎藤 亮平)
- (2) グローバルフェスタ、アースガーデン出展報告  
(報告：サダーカ・イベント担当 山田 優子、広報担当 一色 あずさ)

+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*+\*\*\*\*\*

---

### 1. アハバールフロムヨルダン ≪代表からの挨拶≫

---

#### (1) 代表からの挨拶

サダーカ代表 田村 雅文

停戦合意されたというアレッポの状況が見えにくい中ですが、決して暴力が集結しているわけではないようです。全ての関係者と共に、私たちも諦めずに暴力の停止に向けた努力を進めていきたいと思えます。

シリア、ヨルダンといった地中海に近いこのエリアは日本と同じように四季があります。10月から少しずつ寒くなり、12月に入ると、朝晩は氷点下近くまで冷え込み雨が雪に変わることもあります。毎年同じことですが、多くの人たちは毎年冬にガスストーブ用のガスが必要になります。家賃、食費、そして教育費もぎりぎりの生活

の中で、成長する子どもたちの防寒着を買う余裕はまったくありません。

今に始まったことではありませんが、最近特に気になるのは、シリアの人たちの精神面です。金銭的に余裕があるか無いかに関わらず、家庭訪問先で、彼らの精神的な支えが少しずつ弱くなっている気がします。「生活はどうですか」と聞く度に「全ては神の思し召し」というイスラーム教徒らしい回答をする彼らの表情に、笑顔はほとんどありません。第三国定住をしていく周りのシリア人家族を見ながら、行くべきか残るべきかに揺れる家族もいます。

負傷をした人たちの中には家族がシリア国内にいる人も多く、負傷者たちの多くが混乱が続くシリア国内に帰っていつています。最近シリアに帰国したある 20 代の青年が送ってきた 5 歳の息子と一緒に写っている写真の笑顔はヨルダンでは見られなかったものでした。このまま戦闘が終わり彼らが豊かに生活していけるよう願うばかりです。戦争によって本当に多くの人たちが精神的にぎりぎりのところにいると感じます。

いよいよ 2 月 9 日から 14 日には、サダーカも関わるシリア和平ネットワークが東京外国語大学と共催する「アカデミアと NGO によるシリア危機への実行可能な実効的アプローチに向けて (仮)」が行われます。有識者と市民が考えるシリアの和平に向けた大事なステップです。公開のシンポジウムも 2 月 11 日に予定しておりますので、是非多くの方にお越し頂ければと思います。更に、2 月にはヨルダンにて主に支援活動などを行うシリアと日本の市民が集い和平実現のための対話の場を設けます。

シリア国内の友人が「全ての物の値段が高く生活が成り立たない」という悲痛な叫びの最後に「混乱が起こる前に戻りたい、それは無理かもしれないが、せめて〈恐怖〉の無い生活を」そうインターネット電話越しで語気を強くします。こうした時が一日も早く来るように、私たち市民にもできることがあるはずですよ。

### (3) ヨルダン訪問記

#### 和泉保廣さん (和歌山県在住)

10 月末、和歌山県からヨルダンを訪問され、サダーカの活動にも同行をしてくださった和泉さんからそのときの経験を寄稿していただきました。和泉さんはわずか 4 日間という短い滞在の中、日本の NGO 団体 KnK (国境なき子どもたち)、シリア人女性による NGO シリア・アクロス・ボーダー、そして当団体サダーカを訪問し、ヨルダンのシリア難民たちが抱えている問題を報告してくださっています。



\*\*\*\*\*

1 日目 : KnK JAPAN (国境なき子どもたち) の家庭訪問に同行させて頂きました。

ヨルダン政府は避難民受け入れのため全土の公立学校を午前はヨルダン、午後はシリアの子どもたちに

教える 2 部制に変更しました。避難のため教育を受けられなかったシリア避難民の子どもや 2 部制のため授業時間が短縮され学習に遅れが生じていることもありヨルダン人の子どもに対して英語・アラビア語・数学など基礎教科の補習授業を毎週土曜日に提供しています。しかし、今なお 10 万人近くが学校に通えておらず、その要因は学校までの距離、学校でのいじめや暴力、シリア家庭への支援金の減少による家計の困窮を児童労働で解消しようとする傾向が見られ継続した学習を難しくさせています。これらの事から家庭を訪問し保護者から通学しやすくするための聞き取りを行っています。通学バス代支援、通学途中の不就労者への不安。学校でのいじめの話が出ました。

2 日目 : 「シリア・アクロス・ボーダー」は国外在住のシリア人女性 5 人が設立した難民支援団体です。

シリアの内戦で負傷し治療した後、リハビリの指導など行っている施設です。理学療法士2名、看護師2名、ほか4名が交替で負傷者のお世話をしています。リハビリは数か月から1年行い、終わると難民キャンプやシリアに帰るそうです。訪問時、ちょうど昼食時間にあたり私も一緒にご馳走になりました。この団体では、避難民家庭を訪問し困窮度の高い家庭に食糧・ガス・衣料など配布しています。



3日目：シリア人支援団体「サダーカ」の訪問に同行しました。サダーカとはアラビア語で友情という意味です。訪問したのは東アンアン地域にある比較的支援の届きにくい障害者や子どもやお年寄りの多い家庭です。その日は3つの家庭を訪問しました。日本から持って来たチョコレート、キャラメル、粉末スープ、タオル、ウエットティッシュなど手土産にしました。最初の家庭ではトタン屋根と塀の間から雨水が入ってくるのを直してほしいとの要望でした。この団体は平和を取り戻すための活動や家賃援助や必要物資の支援などを行っています。



4日目：ヨルダンの北部、シリア国境近くに8万人が生活するザータリ難民キャンプへ。長い直線の道を行くとキャンプに入る入口ゲートに着きました。入り口には軍の装甲車が配置され兵士や警察官が物々しく警備おり、写真撮影は禁止、外国人は厳しく監視されているとのこと。キャンプ内に入るには政府の許可が必要で私のような個人の許可はほぼ下りません。キャンプ内で避難民に不安を扇動するような行動があってはいけないためだと思います。入口に面した広い道路に車を止め、キャンプの子どもに声をかけるとあちらこちらから子どもが寄って来ました。お菓子はありますか、1J.R (150円)で僕のTシャツ買ってくれとしつこく催促されましたが、物を盗んだりすることはありません。彼らは、キャンプ内の学校に行っているそうです。半日だけの授業でそのほかの時間は何もすることがないようで、大切な成長時期に戦争は次の世代を担う子どもたちがこういう状態にあるのだと、考えさせられます。こんな生活環境でも子どもは底抜けに明るく印象に残りました。



最後に、サダーカはヨルダンから日本へのシリア難民情報発信基地に見えました。ヨルダン在住の田村さんが、国連職員や日本のメディア、ジャーナリストの方々と連絡を取り合っていることを知り、サダーカがシリア難民のために様々な支援団体と連帯・連携しながら活動をしていることを感じました。日本から遠く離れていることもあり「サダーカ」など支援活動している団体があること自体知らない人も多いと思います。また、例えば知っているても他人事で無関心な人もいます。

最後にシリア難民の人たちが生まれ育った故郷に一日でも早く帰れることをお祈りします。そして長くかかるとは思いますが復

興が叶った時、シリアの一部の人たちになるかも知れませんが「サダーカ」など日本の支援団体の事を思い出し感謝されることと思います。また、家庭訪問の際、通訳をして頂いた林 優さん、それにお名前を忘れてすみません東京外大の学生さん、ドライバーのアブダーレクさん本当にありがとう。

### (3) 水と電気と厳しい冬

サダーカ・インターン 大竹菜緒

10月末にここヨルダンに到着し、インターンとしての活動が始まりました。この1か月はとにかく生活に慣れることを目標にして過ごしていました。おかげでオフィシャルな路線図が存在しない市街の路線バスも乗りこなせるようになりました。乗客はほとんど現地の人々ですが、なるべくここに暮らす人々の目線で生活したいと思っている私にとっては絶好のチャンスだと思っています。それに運賃が安く（1回の乗車で約60円、距離によりますがタクシーの5分の1程度）、節約の面でもやみつきになります……。今回は身の回りの生活で感じたことを拙い文章ですが綴っていきます。

#### ◎水不足

ヨルダンに来て5日目、良いシェアハウスを見つけて引っ越しました。ルームメイトは中東政治を勉強する大学院生のイタリア人、大使館でインターンシップ中のスペイン人。共同生活に心躍る中、溜まっていた洗濯物を洗濯機で回した後、私はルームメイトにこう言われたのです。

「あなたもわかってると思うけど、この国は水がいつも不足しているの、だから節約のために洗濯物は3人でまとめてしましょう。」

この言葉に一瞬戸惑ったものの、ハッと気付きました。1人で洗濯機を使っていたら、週2回自宅に配達される水が尽きてしまうのは当然です。自分がこの国で生活することを改めて実感した瞬間でした。

#### ◎停電

引っ越しをして間もないある日のことです。部屋の電気のスイッチをつけた瞬間、火花を散らして電気がつかなくなりました。大家に連絡したものの、旅行中で対応してもらえず、そのまま3日間ほど停電のまま生活しました。東日本大震災以来の停電でしたが、便利なものは無くなって初めてその有り難さを感じます。そんな経験を出来た3日間でした。



ヨルダンも厳しい冬を迎えています。日中は12～15度、朝夕は5～6度まで冷えます。UNHCRや多くのNGOは今“winterization（越冬支援）”に力を入れていますが、こちらの冬を体感して初めてその存在意義を理解できました。東アンマンに住むシリア人・サマルさんのお宅に泊まらせていただいた時は、ガスのストーブを出してくれましたが、お金がかかるのでいつもは我慢しているようです。水不足、停電、底冷えの冬……。身を以って実体験していると、やはり気になるのが昨年の夏アンマンで訪れた30軒のシリアの人々です。アラビア語の習得に励みながら、時間を見つけて会いに行こうと思っています。

①サマルさんのお手製シリア料理。中央の大皿は「マハシー」（ナスやズッキーニの中にお米を詰めて煮込んだものです）



②今のところアンマンで最も好きな場所は、ダウンタウンにあるローマ劇場です（1番上まで登ります）



③商店でオリーブオイルを買おうと思ったら案外値段が高く、諦めようとした時、店主のおじさんが「ギフトだ!」と言ってカップ1杯分渡してくれました。

#### 〈4〉「ヨルダンへの渡航を終えて」

慶應義塾大学2年 学生団体 S. A. L. 広田潤平

この9月、僕を含む学生団体 S. A. L. 所属の8名で田村さんのアレンジメント協力をいただき、ヨルダンに渡航しました。シリア人を訪ねるという企画のもと、シリア人家庭や難民キャンプ周辺地（マフラック）の難民支援施設や障害者支援施設などを訪れました。また田村さんには僕らのホームステイをしたいという要望も叶えてくださり、Souriyat Across Borders というアンマン市内の戦争負傷者がリハビリをしながら共同生活を送る施設で3日間のホームステイを行いました。

今回の渡航は湾岸諸国を除けば、僕にとって初めての中東への訪問でした。またこの渡航を通して初めて生のシリア人と交流する機会に恵まれました。僕にとってまず大きな感想としては、今まではニュースや映像の中の人だったシリア人と、面と向かってコミュニケーションをとれたことが嬉しかったです。僕はアラビア語を話せるわけではないので、言葉で意思疎通をとることは限られていましたが、一緒に歌を歌ったり、ゲームやサッカーをしたりそうした無邪気に同じ時間を楽しめたことが本当に嬉しかったです。



またヨルダンでは純粋にアラブの文化やヨルダンという国の魅力を満喫しました。ワディラムの広大な大地、お土産屋の青年との他愛ない話、アンマンの街の匂い、喫茶店で嗜むシーシャの味、全てが刺激的で魅了されました。また今回の渡航では偶然も重なって、ワディ・ラムでは満月が上り、犠牲祭（イード・アル＝アドハー）で羊の解体を目の当たりにし（メンバーの1人は羊の血を浴び）、ヨルダンの文化や自然を僕の想像を超えて堪能できました。この魅力をより多くの人に知ってもらいたいと思いましたし、今後色んな人に勧めていきたいなと思いました。中東の魅力を知って、親近感を抱いてもらってシリア人への日本人の関心も高められたら、支援活動の方でも役立っていくのではないかと感じました。



Souriyat Across Borders でステイをしているとき、もっと彼らのいたシリアを見たいという思いで、僕はGoogleの翻訳機能を使って、彼らのスマホの中のシリアの画像を見せてもらおうともしました。しかし「スマホはシリアに置いてきてしまったよ」「もうスマホは変えてしまったんだ」と、彼らの多くも、もはやシリアの写真を持っていませんでした。戦争が始まって5年。言われてみれば自分のスマホに5年前の写真があるかと言われれば、全くといってないことも確かです。ただ、彼らの間にももう共有されていないかつてのシリアの写真があることを思いながら、Googleの検索を通じてでしか故郷の姿を目に収めることのできない彼らの現状に寂しさを感じずにはいられませんでした。故郷の記憶が残る大人はまだいいかもしれませんが、シリアを逃げてきた子どもたちは違います。幼いときにヨルダンに逃げ出した子ども、ヨルダンで生まれた子ども、故郷の記憶がないままに成長していく子どもの存在に思いを寄せたとき、彼らのために自分ができることを探していきたいと心から感じました。



この渡航を通して、彼らのために何か自分にできることをしたいと、いつかのシリアの復興のために力になりたいと、心の底から思いました。かつてのシリア人の幸せな生活が無事に戻ってくることを切に祈ります。そしていつか、美しいシリアの街へ旅に出かけて、温かい人々と幸せなお家で、アラビックコーヒーとデーツが頂ける、そんな日が来ることを信じています。

---

## 2. アハバールフロムニッポン 《日本での活動の報告》

---

### (1) 「目を閉じれば、いつもそこに～故郷(ふるさと)・私が愛したシリア」上映会の記録

サダーカ イベント担当 齋藤 亮平

2016 年後半も全国各地で多数の上映機会を頂きました。

当映画上映では映画鑑賞だけでなく、シリア滞在経験者やシリア支援従事者、またヨルダンからのスカイプなどを通して、「シリア人の今」や「紛争前のシリアの様子」を伝え、今なお続く暴力の連鎖や和平への道筋を皆さんと一緒に考える機会を設けています。

今後も当映画を通し、シリア和平を多くの方々と共に考えていきたいと考えております。

- 9月17日 JICA 九州(福岡県北九州市)
- 9月18日 広島市まちづくり交流プラザ(広島県広島市)
- 10月21日 東京外国語大学(東京都府中市)
- 10月26日 新潟国際情報大学(新潟県新潟市)
- 10月29日 もみじか(東京都八王子市)
- 11月5日 - 11日 高田世界館(新潟県高田市)
- 12月3日 北海道教育大学(北海道函館市)
- 12月10日 豊田市国際交流協会(愛知県豊田市)
- 12月17日 JICA 中部(愛知県名古屋市)
- 12月17日 NPO 法人津山国際交流の会(岡山県津山市)
- 12月17日 北海道教育大学(北海道函館市)
- 12月18日 八尾市国際交流協会(大阪府八尾市)

### (2) グローバルフェスタ、アースガーデン出展報告

サダーカ・イベント担当 山田 優子、広報担当 一色 あずさ

気候も良くなりイベントの多い秋、サダーカは10/1-2にグローバルフェスタ、10/23-24にアースガーデンに出展させて頂きました。

グローバルフェスタでは、紛争前のシリアの写真や、ヨルダンに逃れたシリアの人々の写真展示に加え、アレppo石けんやポストカードなどを販売。中東関係者やシリア難民問題に関心ある方が多くブースを訪れ、シリアの現状や、ヨルダンに避難するシリア人の今、サダーカの活動についての質問が寄せられました。2日目には、みんなで作るシリア展の田村佳子さん、9月にヨルダンを訪問した慶應大学 SAL の学生による報告会があり、多くの方にシリア人の声を伝える機会となりました。



アースガーデンでは、アレッポの石鹸さんのブースに写真を展示させて頂き、今なおシリアで製造されているアレッポ石鹸を販売。老若男女を問わずアレッポ石けん愛用者の方々がブースを訪れ、「アレッポ石けんを通してシリアを知ったが、ニュースなどでシリアのことを聞くたびに心を痛めていて、早く紛争が終わって欲しい」という声もありました。

イベントの収益は、ヨルダンに避難しているシリア人支援、紛争終結に向けてのアクションのために大切に使用させて頂きます。ブースを訪れて下さった皆様、ありがとうございました。引き続き、ブース出展や映画上映などのイベントを通し、シリア人の声を伝え、紛争終結のための様々な活動を行っていきます。



★★★★★  
 このメールマガジンは、勝手ながらこれまでシリア支援の関係でお会いした方々、ご支援を頂いている方々へお送りしております。今後の配信を希望されない方は、お手数ですが、以下までご一報を頂きますよう、お願い申し上げます。配信停止はこちらまで：[info@sadaqasyria.jp](mailto:info@sadaqasyria.jp)  
 なお、このメールの配信元の [akhbar@sadaqasyria.jp](mailto:akhbar@sadaqasyria.jp) は配信専用ですのでこのメールへの返信はできません。  
 ★★★★★